

NPO法人 あっとわん

ママのこころと笑顔の応援団



第152号
通信

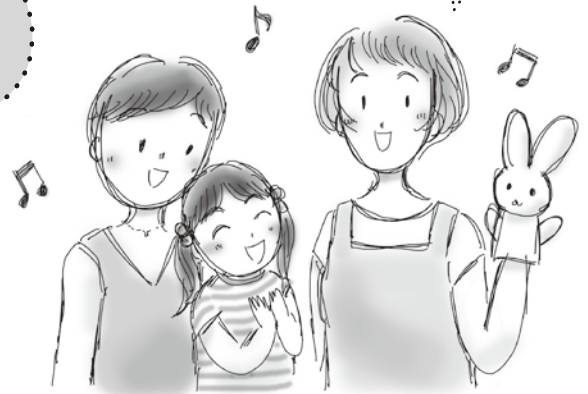
あっとわんは子育て支援の団体です。親と子のエンパワメントを応援しています。 2016年7月22日発行 46,370部

みんなイキイキ、楽しんでます！

NPO 法人あっとわんの ママインターン事業

2014年12月からスタートしている、「ママインターン」事業。地域子育て支援拠点といういわゆる子育てセンターというところの可能性をずっと考えてきました。ただ単に、子どもと保護者が遊びに来るところだけではなく、少子化で働くママが増えている今、子育てを取り巻く環境から、センターの可能性はあるのでは？ということを考えてきました。

※NPO 法人あっとわんでは、療育事業でのママインターン事業も実施していますが、今回は東部子育てセンターでのママインターンを中心にまとめてありますので、ご了承ください。



ママインターン導入のきっかけ

- ◆ 東部子育てセンターのボランティアさんがなかなか集まらない
 - 地域通貨などを利用して実施していたこともあるが、なかなか集まらない
 - ボランティアさんをお願いする仕事内容の選定が難しい
- ◆ 子育て支援の切り口の多様化を考える
 - 活躍の場・就労経験（練習）の場としてのチャレンジの場
 - 人との関わりを学ぶ場
 - 働くことの blanks を埋める場
 - 多様な価値観や人との出会いの場
 - 子育て世代の現実として「働く」ことへの課題解決の糸口になるかも？働くことや、その他様々な経験はしたいが、ボランティアで関わるには限界があるのが現実です。

NPO 法人あっとわんが子育て支援を地域で活動してきたからこそその視点・・・

- ママインターン制度の導入で社会と地域とハタラクをつなぐ
- 子育てセンターだからこそできる、子育てからの目線で、ハタラクを応援したい！

ママインターンが関わる時の位置づけを明確にすることがとても大切です

- ➔ 働く前段階としての位置づけ
- ➔ 働くための準備体操
- ➔ ハタラク経験の場
- ➔ 支援者養成の場

- ボランティア以上 スタッフ未満の位置
- 働くことへの不安を軽減できる
- 子育て支援の現場で働きたいという方が増えている



実施の成果として、参加して良かったこと。

- インターンの機会を経て、パート就労への自信が付き、実際に就職をした
- 来館者との関わりや対応を経験することで、コミュニケーションが豊かになった。
- 自分の次のステップを見つけられた。
- 積極的に自分から行動を起せるようになった。
- 私は今後どうするべきか？を考えるきっかけになった。
- ママ友以外の人との出会いがあり、関わりができた。
- 視野が広がり保育士として復職したいと思うようになった。
- 「仕事」への意識と感覚が戻った。
- 時間のやりくりができるようになった。
- 子どもにもお願いすることが増え、挑戦してみることが増えたように思う。
- 生活サイクルが整った。
- 働き方について家族との会話が増えた。
- 資格取得を目指すようになった。
- 家族軸ではなく自分軸で動く事が増えた。
- 家族のことを理由に、自分で動くとしていなかったのがわかった。
- まずは、行動してみるということの重要性がわかった。
- 感情で物事を考えることが減ってきた。
- 一歩を踏み出し行動できるようになった。
- 自信が持てるようになった。

ママたちの可能性を形にするためにママインターンをより良いものにするためには？

◆ センター側の課題

きめの細かいコミュニケーションが重要
コミュニケーションはじめ、それぞれの個性やできることが適切に稼働するかが課題で、なにをどう提供するかがポイント

◆ インターン側の課題

子育て支援サービスを受けるだけの存在ではなく、目的意識的に行動できる人材として子育て世代の人材育成をどう進めるのか？という視点が必要になるでしょう